



2026年7月13日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 日 本 製 鋼 所
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 松 尾 敏 夫
(コード番号：5631 東証プライム)
問 合 せ 先 総 務 部 長 寺 田 健 二
(電 話 ： 03-5745-2001)

中期経営計画「JGP2028」アップデートに関するお知らせ

2026年7月7日に開示いたしましたとおり、中期経営計画「JGP2028」アップデート（個別事業戦略の詳細等を含む）について、お知らせいたします。

「JGP2028」アップデートの内容については、添付資料をご参照ください。

以 上

Update
2026

中期経営計画

JGP2028

2025年3月期 – 2029年3月期

アップデート

株式会社日本製鋼所

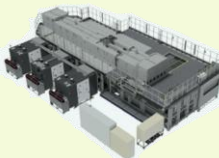
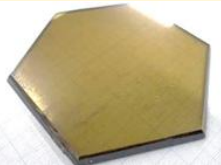
2026年7月13日

JSW

【ご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

事業セグメントの構成と主要製品

事業セグメント	産業機械事業				素形材・エンジニアリング事業		その他事業
生産拠点	広島 横浜 名機（愛知）				室 蘭		
サブセグメント	樹脂製造・加工機械	成形機	防衛関連機器	電子デバイス他	素形材製品	エンジニアリング他	
主要製品	● 造粒機 	● プラスチック成形機（射出成形機、中空成形機）  	● 各種火砲 ● 装甲車両 ● ミサイル発射筒   （写真：海上自衛隊提供）  （写真：陸上自衛隊HPより引用）	● レーザ応用装置 - FPD製造装置 - パワー半導体製造装置  ● プレス機 ● 真空ラミネーター ● 成膜装置 	● 発電機・蒸気タービン用ローターシャフト  ● 原子炉・蒸気発生器部材  ● クラッド鋼板 	● 鋼製水素蓄圧機  ● 各種非破壊検査 	● フォトニクス 
	主なアプリケーション	● 各種プラスチック ● バッテリー、食品包装、光学機器、半導体デバイス	● 自動車、電気・電子、日用品・雑貨、IT関連機器等	● 防衛装備品	● OLED/LCDパネル ● プリント基板、半導体パッケージ基板	● 蒸気タービン・発電機（火力・原子力） ● 原子炉圧力容器等（軽水炉、高速増殖炉、高温ガス炉、核融合炉等）	● 通信・光学機器等 ● 電子機器
主な顧客市場	石油・ガス化学		プラスチック製品	防衛省	ディスプレイパネル	重電機器	
	自動車部品			海上保安庁	半導体	再生可能エネルギー等	通信・電子機器

INDEX

PART 1

2033年度に目指す姿とJGP2028

PART 2

JGP2028の進捗

PART 3

JGP2028のアップデート

PART 4

セグメント別事業戦略のアップデート

PART 1

2033年度に目指す姿と JGP2028

PART 2

JGP2028の進捗

PART 3

JGP2028のアップデート

PART 4

セグメント別事業戦略のアップデート

2033年度に目指す姿

Purpose
(パーパス)

Material Revolution®

「Material Revolution®」の力で
世界を持続可能で豊かにする

価値創造と社会課題の解決

プラスチック資源
循環社会の実現



低炭素社会への
貢献



超スマート社会への
貢献



マテリアリティマネジメントによる
社会課題の解決

持続的成長に向けた経営基盤の強化

人的資本の強化と
DEI&B



未来への投資と
イノベーション
マネジメント



JSWグループ
における
ガバナンス強化



DEI&B

ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン&ピロギング

社員一人ひとりの力が最大限に発揮されるためには、「従来のD（多様性）&I（包摂性）」に加え、「E（公平性）」や「B（従業員が自分らしくいられる環境づくり）」が不可欠との考えから、マテリアリティの「D&I」を「DEI&B」に変更しました

JSW Group
Value Creation Process
(価値創造プロセス)

当社グループは、コア・コンピタンスをより一層磨き、社会課題を解決する産業機械と新素材を開発・実装する「Value Creation Process（価値創造プロセス）」により、社会価値の創出と持続的な企業価値の向上を同時に実現していきます

サステナビリティ目標

社会課題を解決する
産業機械と新素材の
開発・実装を通じて
持続可能で豊かな世界
の実現に貢献する

2033年度に目指す姿



財務目標

売上高5,000億円規模の
企業グループへの成長を目指す

売上高	5,000 億円
営業利益	500 億円
ROE	11~12%

Vision
(ビジョン)

社会課題を解決する産業機械と新素材の開発・実装を通じて
全てのステークホルダーに貢献する

新たな成長に向けた変革と挑戦：2033年度に目指す姿の実現に向け、マテリアリティを解決しながら持続的に企業価値を向上

JGP2028

マテリアリティを解決しながら企業価値を向上

マテリアリティ

- ・プラスチック資源循環社会の実現
- ・低炭素社会への貢献
- ・超スマート社会への貢献

解決

基本方針①

現有事業の持続的価値向上

解決

基本方針②

新規事業の創出・育成

財務目標

売上高3,800億円以上の企業グループへの成長を目指す

売上高 3,800億円
営業利益 370億円
ROE 10～11%

エクイティ
スプレッドの拡大

財務目標のアップデートはP.15

経営基盤の整備

基本方針③

人への投資を始めとした
無形資産投資の拡充

基本方針④

コーポレートガバナンスの
強化

2033年度

サステナビリティ目標

社会課題を解決する産業機械と
新素材の開発・実装を通じて
持続可能で豊かな世界の実現に貢献する

同時
実現

財務目標

売上高5,000億円規模の企業
グループへの成長を目指す

売上高 5,000億円
営業利益 500億円
ROE 11～12%

PART 2

JGP2028の進捗

PART 1

2033年度に目指す姿とJGP2028について

PART 3

JGP2028のアップデート

PART 4

セグメント別事業戦略のアップデート

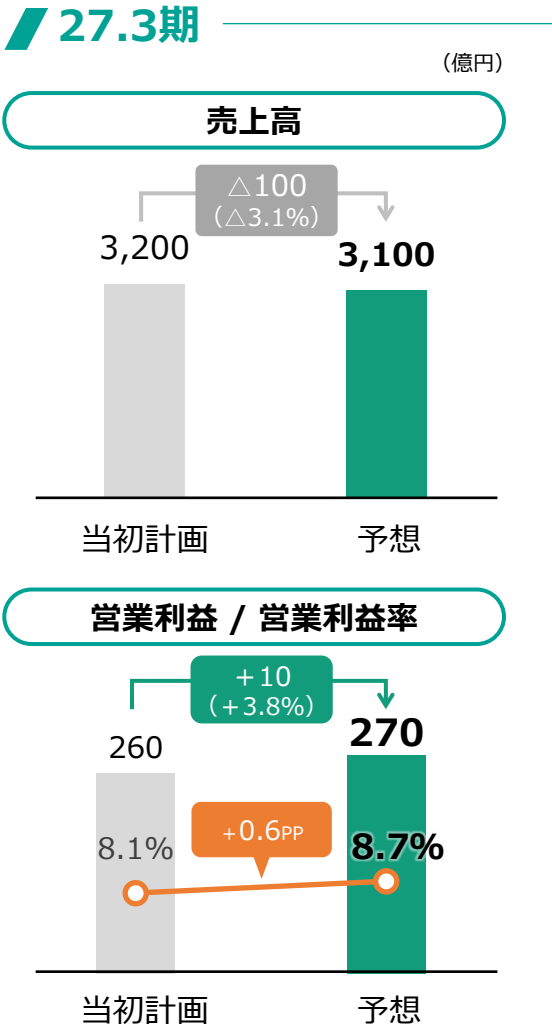
JGP2028 4つの基本方針 進捗状況

4つの基本方針		評価	25.3期～26.3期の進捗	
① 現有事業の 持続的価値向上	◎	広島製作所 樹脂機械製品の生産能力拡大	- 第10組立・第3機械工場 竣工、第4機械工場を建設中（28.3期竣工予定） - 樹脂機械ソリューション事業部を設置（26年4月）	
		適地生産・相互補完による生産能力の拡大	- 防衛: 広島製作所 新組立工場竣工、室蘭・名機製作所での生産体制構築 - 拠点間での生産移管を機動的に実施	
		現地生産の強化によるグローバル展開の推進	- 二軸混練押出機(TEX)：韓国に新工場を建設(SM Platek社) - グローバル戦略本部(26年4月)、インド エクスペリエンスセンターを設置	
		室蘭製作所 素形材製品の生産能力拡大	- 鍛錬用マニプレーターを設置 - 製鋼用二次溶解設備、機械加工用大型旋盤 更新・増設工事中（28.3期竣工予定）	
② 新規事業の 創出・育成	○	「超スマート社会への貢献」実現への重点投資を中心に研究開発活動を推進（研究開発費：2年間累計118億円） - 革新技术の開発を担う、新たな研究開発拠点の用地を取得 - 窒化ガリウム（GaN）結晶、ニオブ酸リチウム(LN)結晶の早期事業化を目的とし、フォトニクス事業室を設置		
③ 人への投資を始めとした 無形資産投資の拡充	○	人的資本戦略	- 事業戦略に適合した多様な人材を、計画を上回るペースで獲得（新卒、経験者採用） - エンゲージメントの向上を目指し、厚生労働省「くるみん」認定を取得	
		DX戦略	- 社内の生産性向上と顧客への新たなソリューション提供が順調に進捗 - 経済産業省より「DX認定事業者」の認定を取得	
④ コーポレート ガバナンスの強化	○	役員報酬制度の見直し	株式報酬比率を引き上げるにより、中長期的な企業価値向上に対するインセンティブ機能を強化	
		取締役会、監査役会の多様性向上	社外役員・女性役員比率を向上（社外取締役比率50%、社外監査役比率50%、女性取締役比率20%、女性監査役比率25%）	
		政策保有株式の縮減	26.3期：対連結純資産比率 11.8% → 27.3期：10%以下へ縮減予定	

中期経営計画 JGP2028 財務目標の進捗

27.3期まで順調な進捗を予想

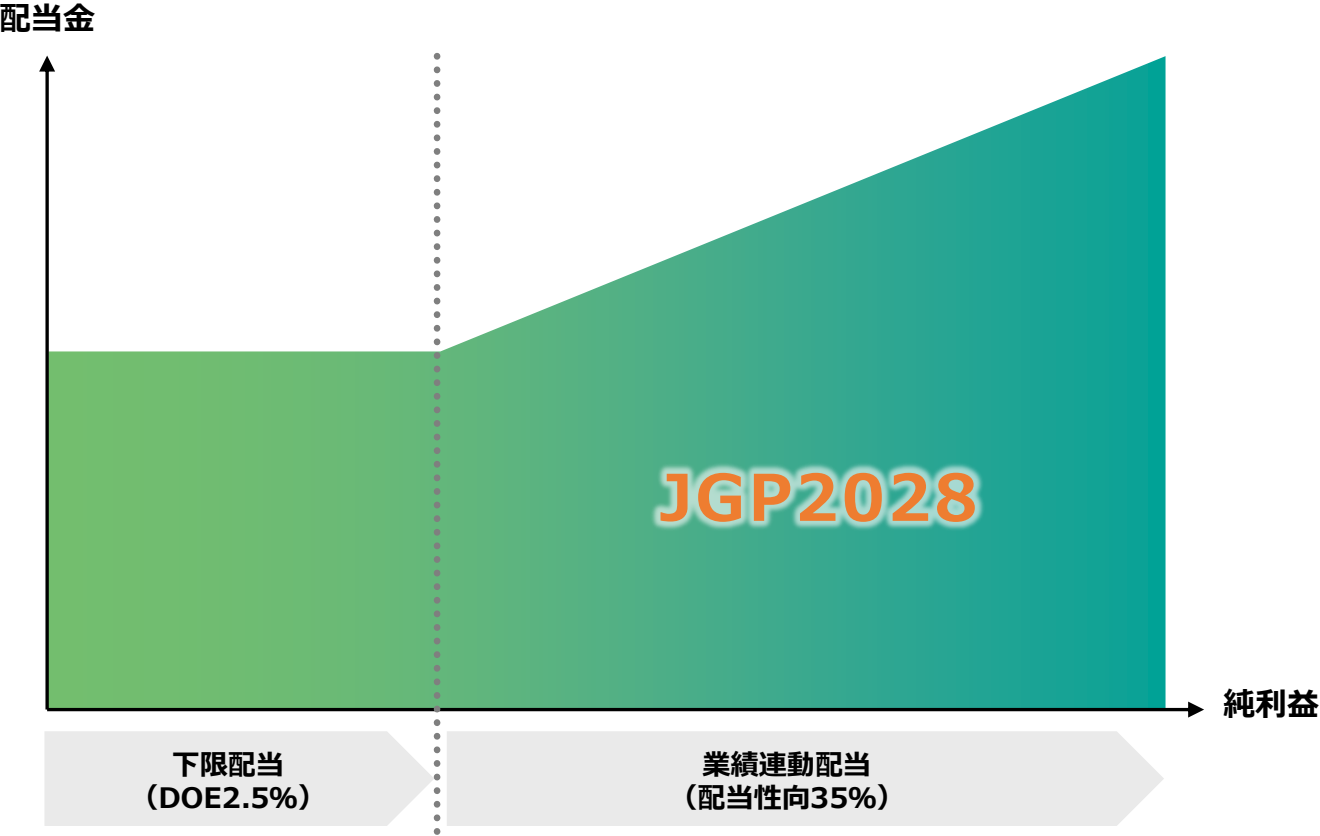
(億円)	JGP2028					
	24.3期 実績	25.3期 実績	26.3期 実績	27.3期		
				当初計画 (2024.6開示)	予想	予想 - 当初計画
売上高	2,525	2,485	2,748	3,200	3,100	△100
営業利益	180	228	253	260	270	+10
営業利益率	7.1%	9.2%	9.2%	8.1%	8.7%	+0.6PP
ROE	8.5%	9.7%	9.5%	9.0%	8.7%	△0.3PP
EBITDA	257	307	343	401	391	△10



配当方針

「連結配当性向 35% 以上」を目標とした上で、「DOE（連結株主資本配当率）2.5%」を下限に配当を実施

配当方針のイメージ



	24.3期	25.3期	26.3期	27.3期 予想
年間配当 (円)	59.0	86.0	92.0	92.0
配当性向 (連結)	30.4%	35.2%	35.2%	35.6%
DOE	2.7%	3.7%	3.7%	3.5%

PART 3

JGP2028のアップデート

PART 1

2033年度に目指す姿とJGP2028について

PART 2

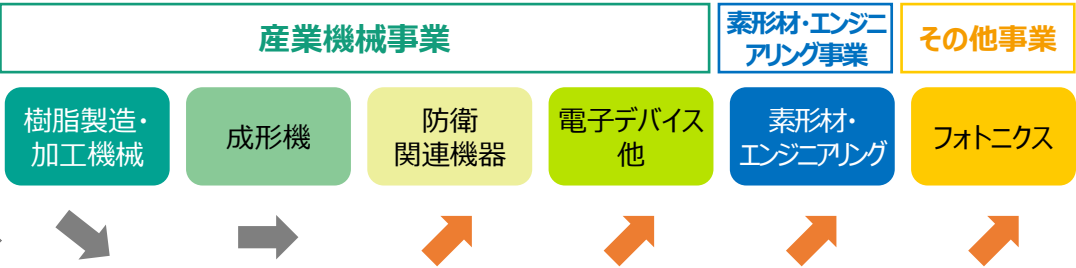
JGP2028の進捗

PART 4

セグメント別事業戦略のアップデート

中期経営計画 JGP2028 アップデートの必要性

主要製品の市場環境は、
中計策定時から大きく変化



EV市場の成長減速	- バッテリーセパレータフィルムは設備過剰に。需給バランスは緩やかな改善傾向にあるが、大きな期待はできない - 自動車の設備投資はこれまで停滞、今後は一部メーカーによる増産投資を見込む	◎ → ▲	○ → ▲				
地政学リスクの高まり	- 経済のブロック化進展を受け、各国で投資姿勢の変化と一時停滞が発生 - 中国では投資回復の動き、インド他での市場成長を見込む	○ → ▲					
	防衛関連予算拡充の動きが続くなか、新規装備品のニーズが高まる			○ → ◎			
エネルギー政策の変容	- エネルギー安全保障と早期の安定電源確保に向けた現実解として、高効率火力発電需要が増大 - 中長期では、原子力発電需要も増大、継続の見通し				○ → ◎		
AIの急速な普及 データセンターの増加	計算資源の確保に伴い、火力・原子力発電と蓄電池（ESS: Energy Storage System）需要が増加	▲ → ○				○ → ◎	
	AI、サーバー、通信等、データセンター関連需要が増加 【関連する当社製品】 マグネシウム成形機、プリント基板用プレス機、パッケージ基板用ラミネーター、銅合金、高周波デバイス・光通信用各種結晶等		○ → ◎		○ → ◎	○ → ◎	○ → ◎

中期経営計画 JGP2028 事業戦略の見直し

事業セグメント	市況変化	事業戦略
樹脂製造・加工機械	↓	- 中国での需要回復を捉えると共に、インド・中東等、成長地域に経営資源を重点配分 - セパレータフィルムの高性能化・生産性向上への需要を取り込む - 設備投資による生産能力増強により、アフターサービス事業を伸長、収益力を向上
成形機	→	- プラスチック成形機のグローバル化を加速、欧州でのシェア拡大とインドでの電動機拡販に注力 - フィジカルAI向けマグネシウム成形機需要に対応、新機種投入により需要を取り込む
防衛関連機器	↑	- 需要増大への対応として、適地生産・相互補完による一層の供給能力増強 - 防衛装備品の需要動向を踏まえた新規装備品の提案を強化
電子デバイス他		- FPD製造用F-ELA装置の需要増大に対応、生産体制を整備し本体・アフターサービス需要の取り込みを強化 - データセンター向けプリント基板製造用プレス機を拡販、次世代パッケージ基板製造用ラミネーターの開発を進める
素形材・エンジニアリング		- 高効率火力発電需要の増大に対応、タービン・発電機用ローターシャフト設備能力を1.5倍に増強（26.3期より実施中） - 原子力発電需要の拡大と長期的な伸長に対応、生産能力倍増へ - データセンター向けチタン銅の供給体制を構築、高水準の需要に応える（室蘭銅合金株式会社）
フォトニクス		窒化ガリウム（GaN）結晶、ニオブ酸リチウム（LN）結晶の顧客評価・量産化対応を加速、早期事業化を目指す

財務目標のアップデート

29.3期 財務目標

売上高

4,000億円

当初計画比

+5.3%

営業
利益

400億円

+8.1%

営業
利益率

10.0%

+0.3PP

ROE

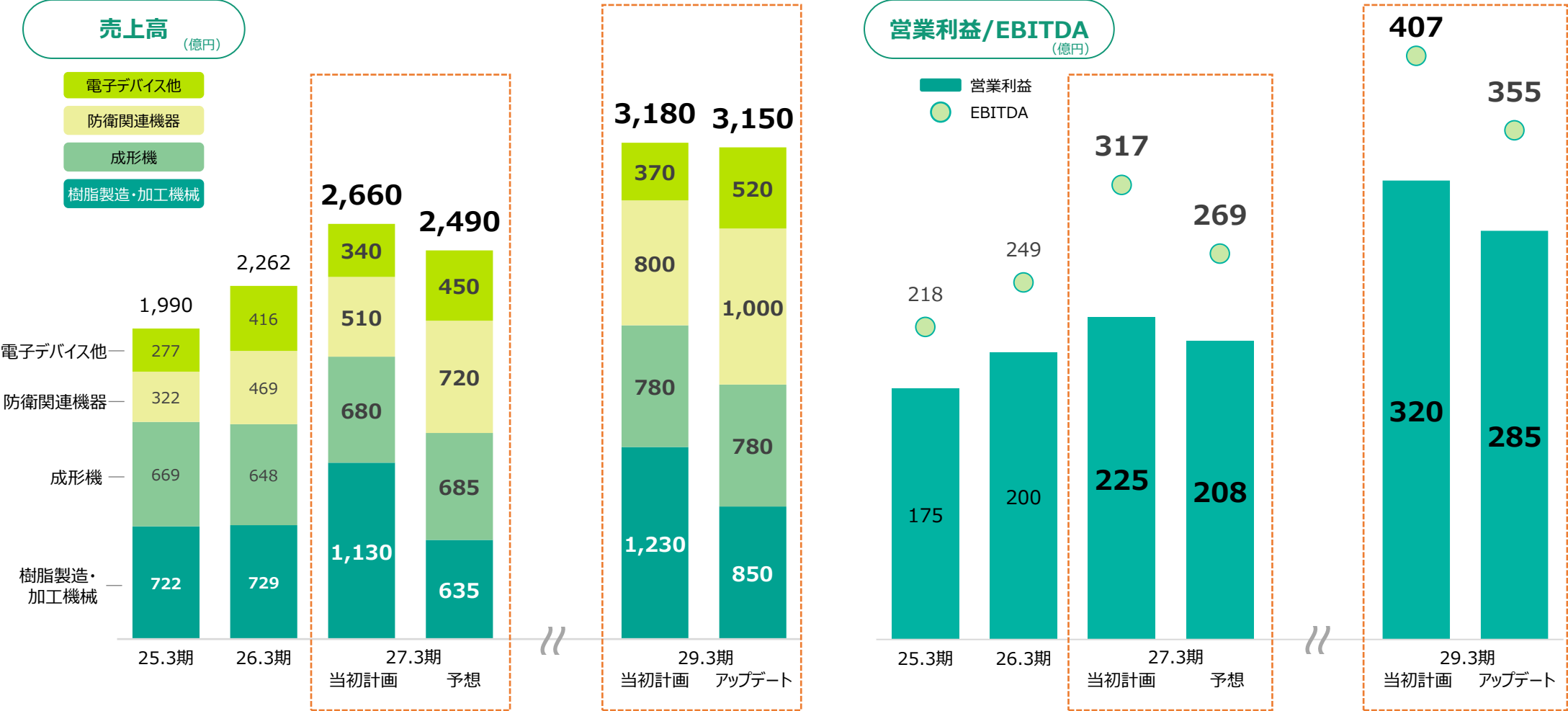
10~11%

—

	29.3期		
	当初計画 (2024.6開示)	アップデート	アップデート - 当初計画
(億円)			
売上高	3,800	4,000	+200
営業利益	370	400	+30
営業利益率	9.7%	10.0%	+0.3PP
ROE	10~11%	10~11%	—
エクイティスプレッド	2~3%	2~3%	—
配当性向	35%	35%	—
EBITDA	518	550	+32

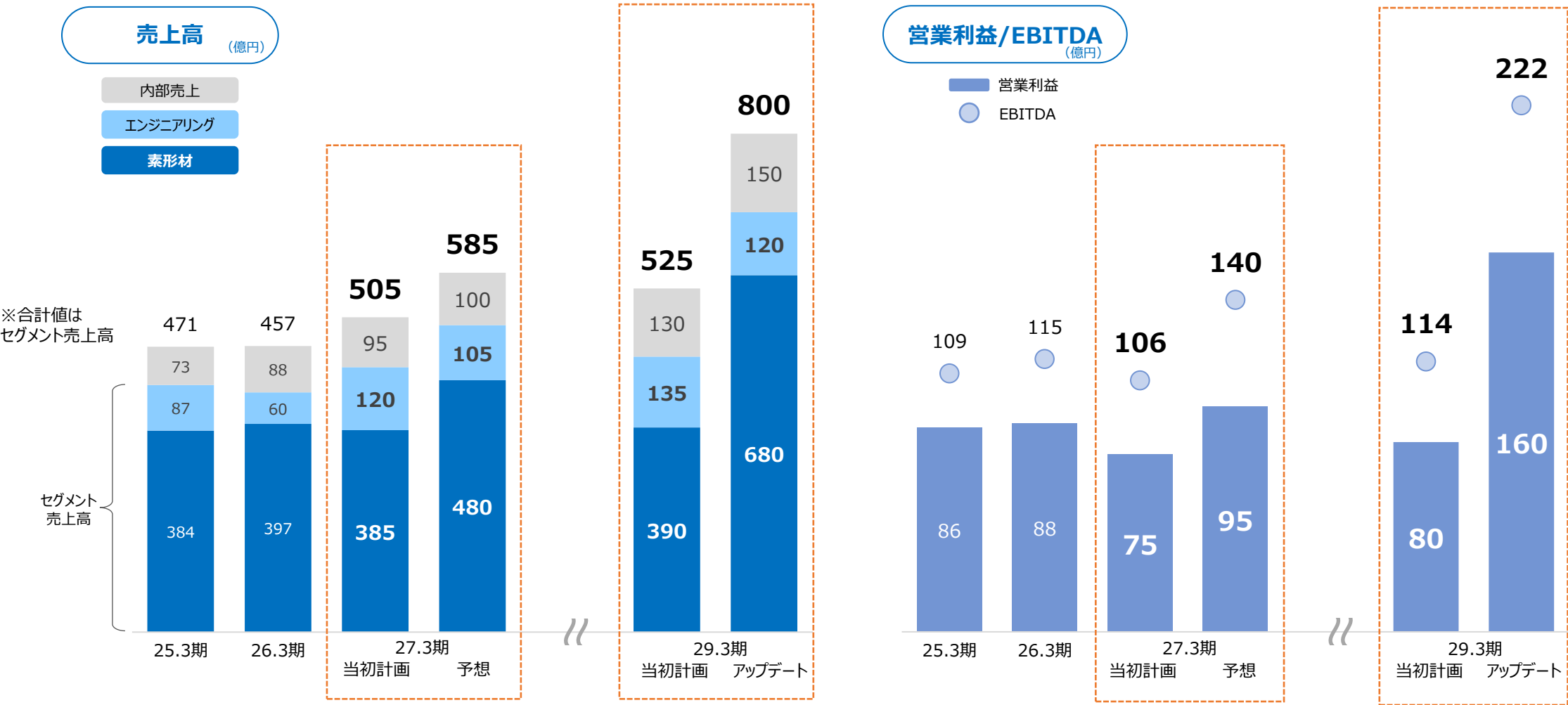
財務目標のアップデート（産業機械事業）

29.3期の売上・利益は当初計画を下回るが、増収・増益基調を維持



財務目標のアップデート（素形材・エンジニアリング事業）

電力・原子力製品が牽引し、当初計画比大幅な増収・増益を計画



PART 4

セグメント別事業戦略の アップデート

PART 1

2033年度に目指す姿とJGP2028について

PART 2

JGP2028の進捗

PART 3

JGP2028のアップデート

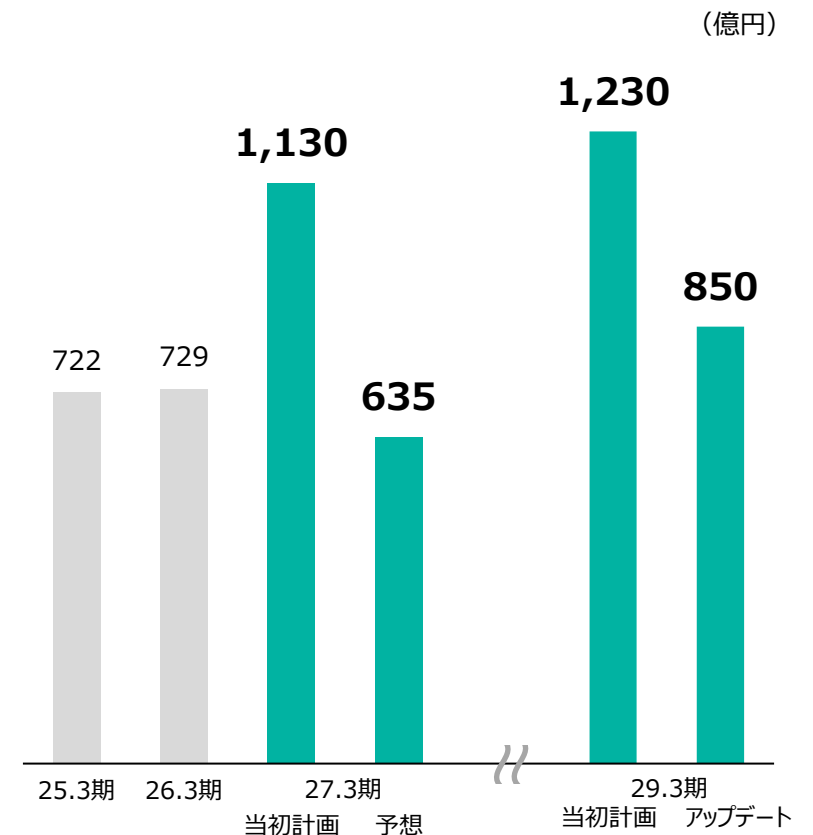
樹脂製造・加工機械

アップデート・サマリー

回復・増加する需要の取込みと収益力の向上を実現、次期中計での再成長へ

	樹脂製造機械	樹脂加工機械
当初計画の戦略	- プラスチック需要の拡大を背景に生産力強化で需要増に対応 - 需要地での設備投資を取り込み、好調な市場を着実に捕捉	- セパレータフィルムの需要は北米・欧州・中国に三極化、中長期で伸長と予想 - 足元の調整局面を経て、中長期の回復を前提に対応
事業環境の変化	- 世界のプラスチック需要は、2034年にかけてCAGR4.7%の予想で変わらない - 中国では26.3期にかけ投資停滞、27.3期より限定的ながら回復を見込む - インドでは投資決定が加速の傾向	- EVの需要成長が想定を下回り、26.3期までは投資停滞 - データセンターや電力向けESSなどで湿式セパレータフィルムの需要が増加傾向、27.3期より投資回復の見込み
戦略のアップデート	- 中国での需要回復と技術要求の高度化に対応しつつ、インド他の成長市場での現地体制を抜本的に強化 - 高い内製率と豊富な実績に基づく技術力と品質への信頼により、中長期で継続する需要を確実に取り込む	- 湿式セパレータフィルム製造装置需要の増大に、生産性をより高めた装置の投入により応える - ハイエンドフィルムでの圧倒的な供給実績に基づく開発力を活かし、中国を中心に増加する需要を取り込む
	アフターサービス - 設備投資による能力増強を活かした、短納期による需要取り込みの強化 - 高機能化・生産性改善等、技術提案による改造工事の拡大	

売上推移

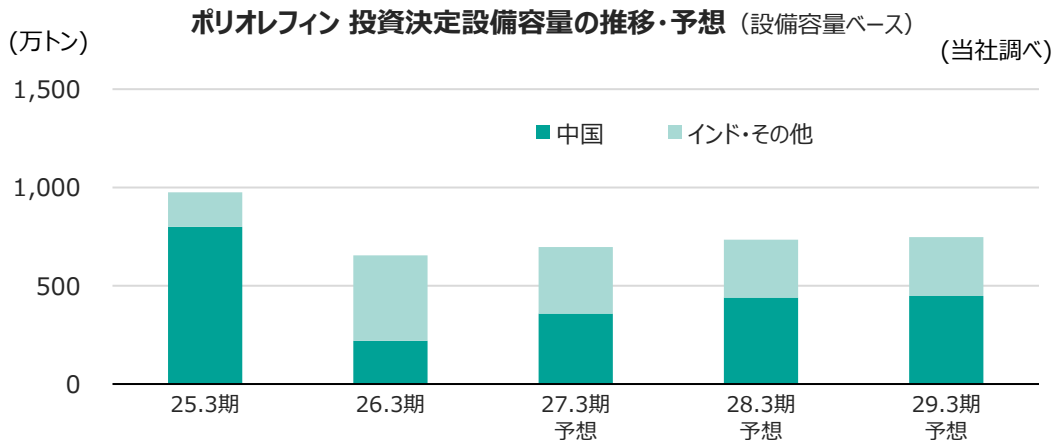


樹脂製造機械

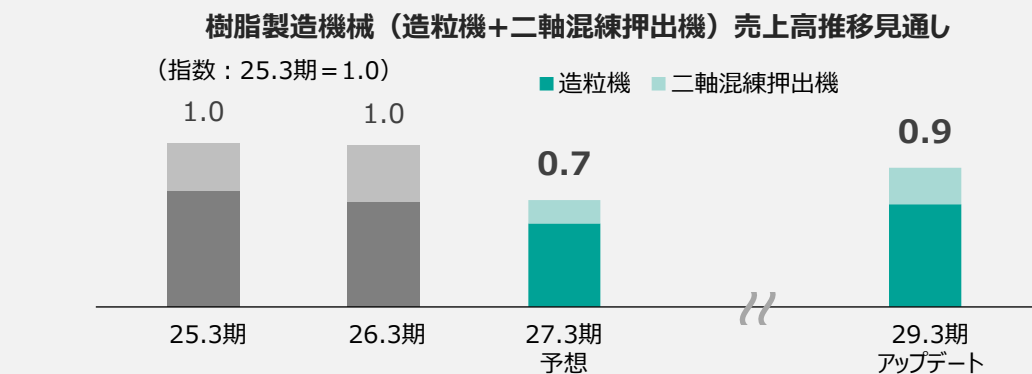
アップデート

主要市場での現地体制を強化、中長期で継続する需要を捉える

樹脂製造機械の市場環境

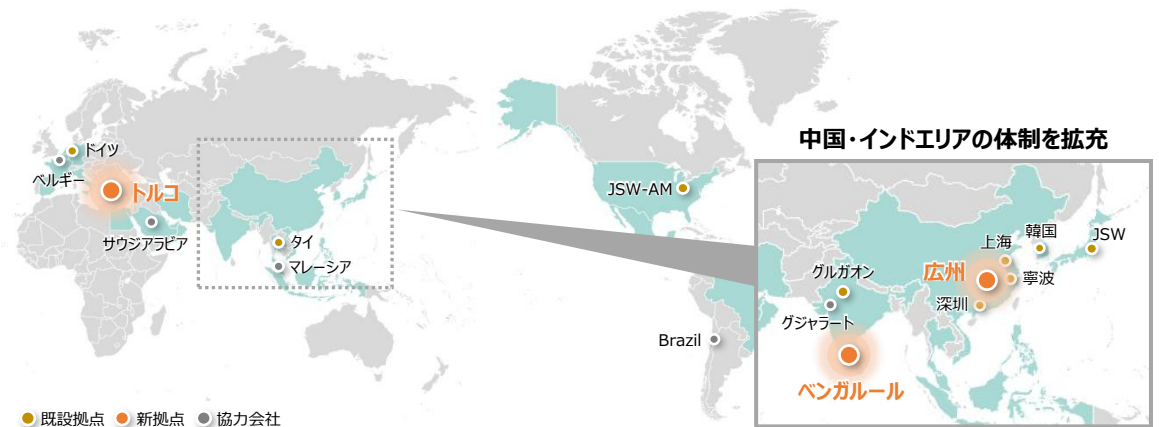


樹脂製造機械の売上推移・予想



地域別戦略による需要の取り込み

- 中国市場では新5カ年計画を受けて投資が再開。産業の高付加価値化と環境対応に向け、技術要求は高度化の傾向。
- インド市場では汎用プラスチックの生産能力拡大投資が継続。今後は高性能プラスチックの生産拡大も期待される。
- 主要市場での営業体制の増強、パートナー企業の拡充等により、現地体制を抜本的に強化。



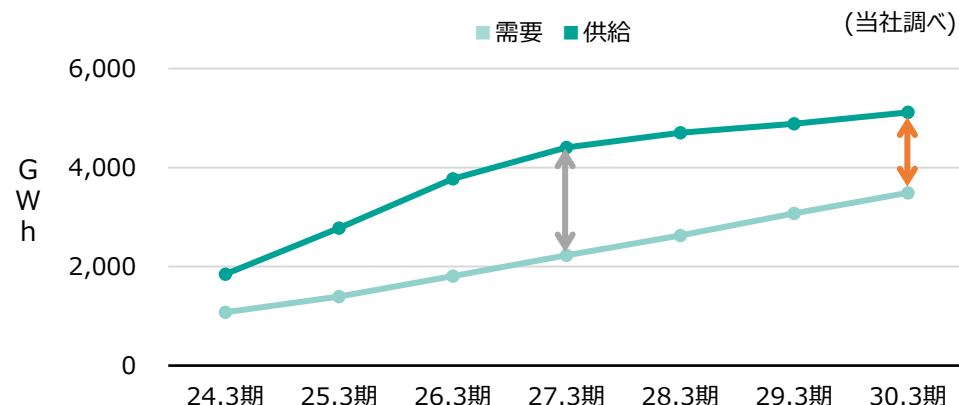
- 地域別戦略の策定と迅速な遂行により、長期に継続するプラスチック需要をグローバルで捕捉していく。

樹脂加工機械

アップデート

圧倒的な実績を基に、生産性を高めた装置を投入し、需要を取り込む

EV及び蓄電池（ESS）向けバッテリーの需要と供給推移

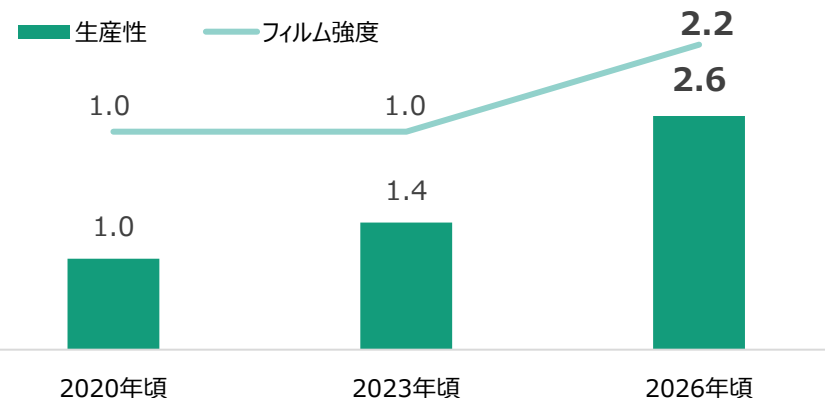


- EV需要が想定を下回り、需給ギャップが拡大するも、ESS向け需要の増加により縮小に転じる見通し。

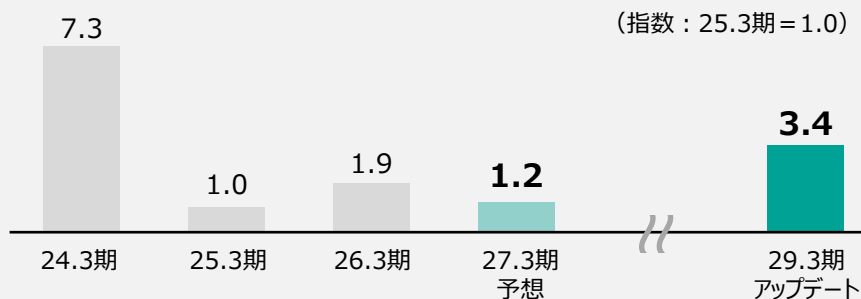
ESS向け需要の取り込み

- EV販売台数の増加に加え、再生可能エネルギー発電所や電力系統向け等、高出力インフラ向けに蓄電池(ESS)の需要が増加、27.3期より設備投資の再開が見込まれる。
- 蓄電池の安全性とエネルギー密度の向上に向けたフィルムの高強度・薄膜化と、フィルムの生産効率向上への要求の高まりに対し、技術開発力で対応。
- 高品質セパレータフィルム製造設備における圧倒的な供給実績を基に、拡大する需要を取り込む。

当社セパレータフィルム製造装置の生産性とフィルム強度の推移



セパレータ用フィルム・シート製造装置 売上高推移・予想

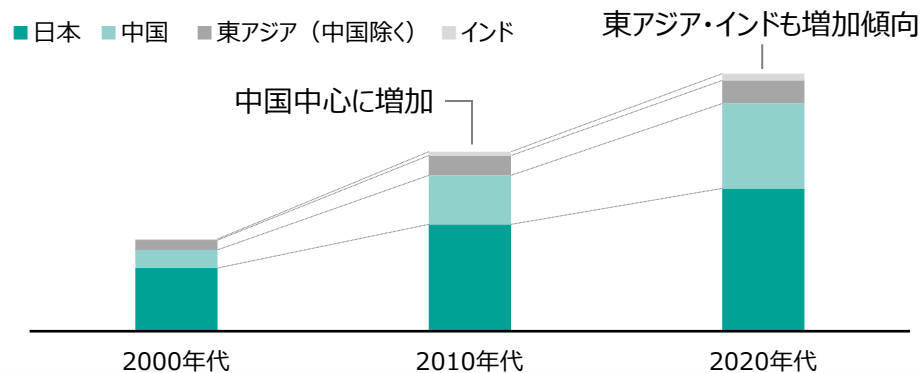


樹脂機械アフターサービス

アップデート

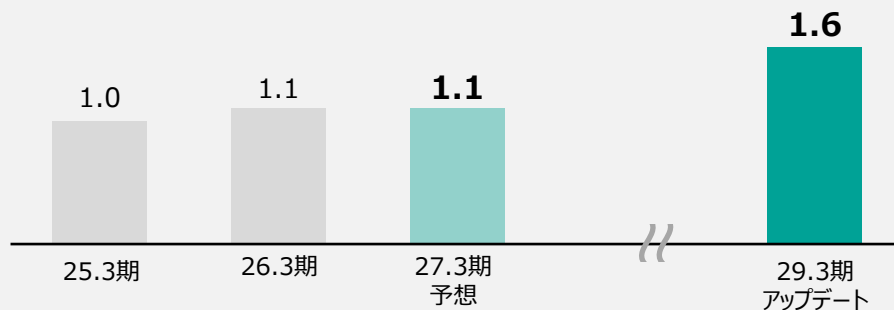
設備投資による生産能力増強を活かし、アフターサービス事業を伸長させる

樹脂製造機械のアジア地域での累積納入台数推移



アフターサービス事業の売上推移・予想

樹脂機械 アフターサービス事業の売上推移見通し
(指数：25.3期 = 1.0)



納入実績の増加と地域の変化に対応

- 2026年4月に樹脂機械ソリューション事業部を設置。樹脂製造・加工機械のアフターサービス事業を一元的に担う製販体制を構築。
- 各地で稼働する当社製品の増加に伴うアフターサービス需要に、設備投資で得た生産能力で対応。

26.3期	27.3期		28.3期		29.3期	
下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
26.3期末竣工、稼働を開始						
建設・設備据付等				28.3上期 稼働開始予定		



稼働を開始した第3機械工場（左・中）と建設の進む第4機械工場（右）

- 中国を含むアジア市場での需要拡大を取り込むべく、当社エンジニアの配置強化とローカルパートナーの充実によりアフターサービス網を強化、需要の把握と対応を進める。
- 新たな価値創出に対応したレトロフィット提案により、既設機の改造需要を創出する。

成形機

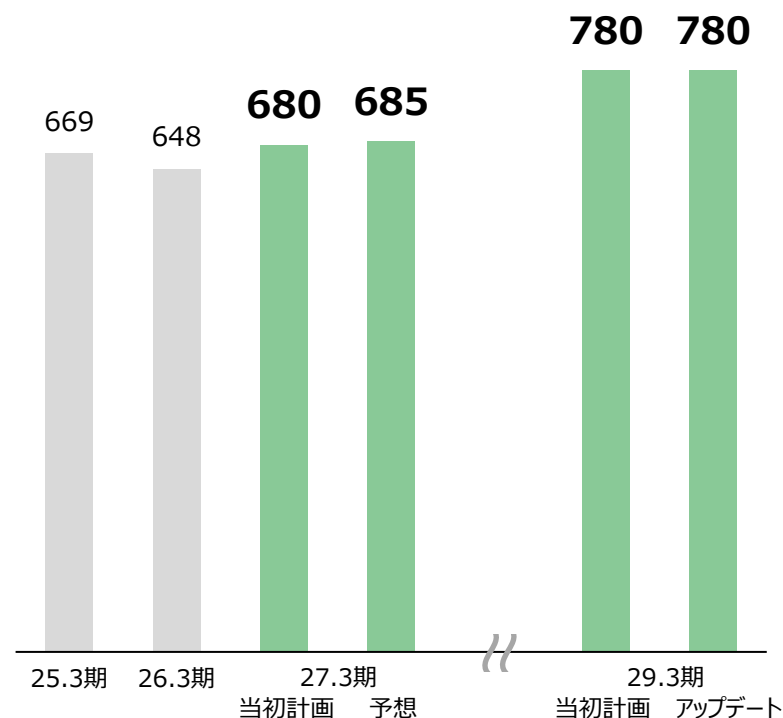
アップデート・サマリー

プラスチック成形機のグローバル化加速、新型マグネシウム射出成形機の投入により事業を伸長

	プラスチック	マグネシウム
当初計画の戦略	欧州での電動化需要に対応、インドでのプレゼンス向上と販売・サービス網強化により、グローバルシェアを拡大する	自動車産業で強まる、車載ディスプレイの大型化、軽量化要求に応える新型機を上市、地域別仕様機を投入、市場規模の拡大に対応する
事業環境の変化	- 国内市場は、自動車向けを中心に低調に推移、今後一部に回復を見込む - インドの高級機市場は着実に拡大	- 自動車関連投資は低調に推移するも、マグネシウム成形品の適用は着実に拡大 - フィジカルAI分野でのマグネシウムの採用拡大が見込まれる
戦略のアップデート	欧州での顧客ニーズ対応、成長するインド市場にエクスペリエンスセンターや統括拠点設置など販売・サービス網強化により、需要取り込みを加速し、グローバルシェア向上により事業を伸長させる	マグネシウム射出成形機のパイオニアとしての知見、自社開発素材により実現する精密・安定成形と長寿命を訴求、フィジカルAIに対応した新型機を投入する

売上推移

(億円)

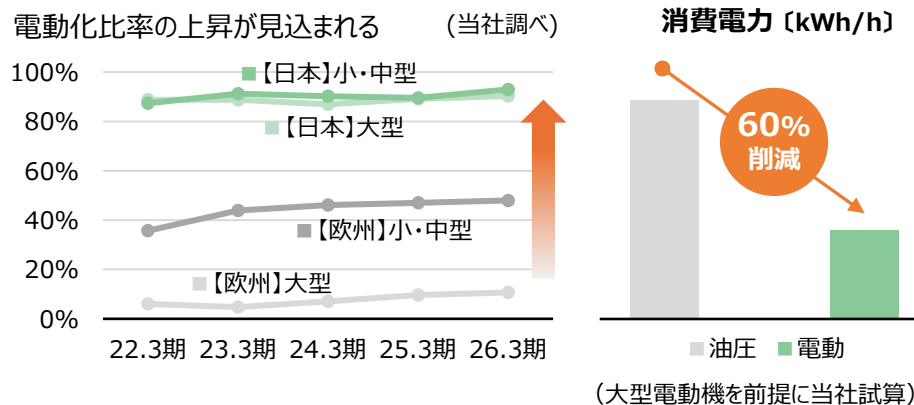


成形機：プラスチック射出成形機

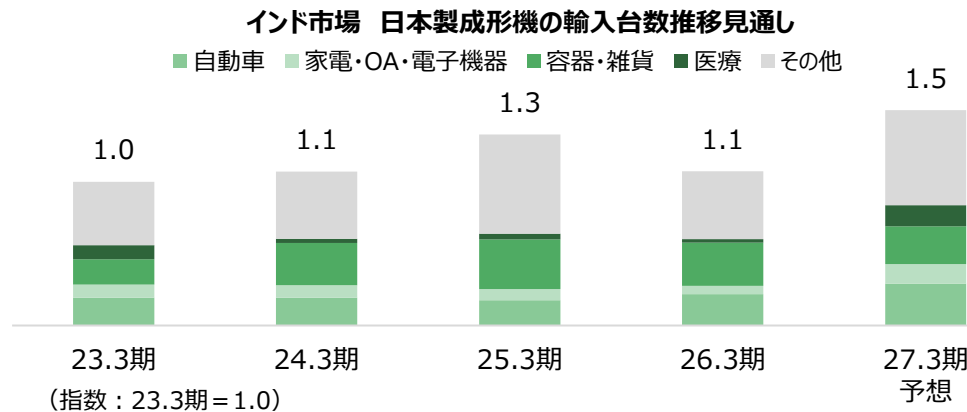
アップデート

欧州でのシェア拡大と成長するインド高級機需要を捉え、グローバルシェアの向上を図る

欧州では射出成形機の電動化率が上昇傾向



インドでは日本製成形機輸入が増加傾向

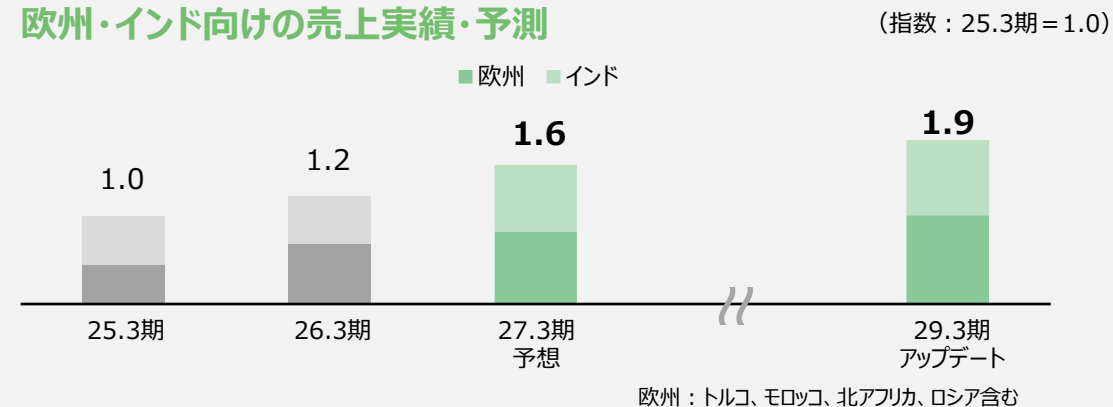


グローバルシェアの拡大

- 欧州では、成形機の電動化率が上昇傾向を継続。ポーランドに組立拠点を有する当社の強みを生かし、顧客のニーズに応えシェアを高める。
- インドでは、Make in India政策の進展に沿い、高精度・安定成形に優れる電動機の輸入が増加傾向。ベンガルールにインド事業の統括拠点を設置、エキスパートセンターを活用したプレゼンス向上、現地パートナー・代理店の拡充により拡大する需要を捉える。
- J-Wise[®](※)による顧客サポートと、日本からのリモートサービス・現地サービス員の連携により海外市場での顧客満足度と信頼を向上、グローバルシェアを高める。

※ J-Wise[®]は顧客のスマートファクトリー化を支援するIoTソリューション。[生産管理] [サービス・保全] [運転支援] [生産自動化システム]で構成

欧州・インド向けの売上実績・予測

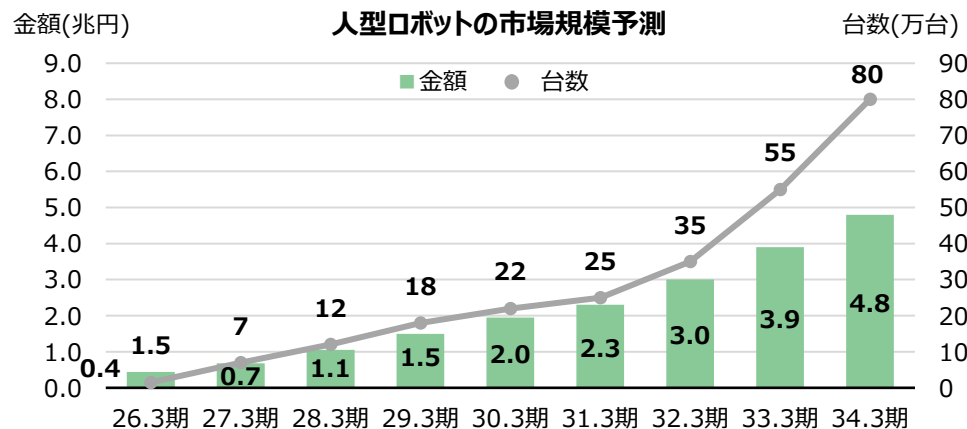


成形機：マグネシウム射出成形機

アップデート

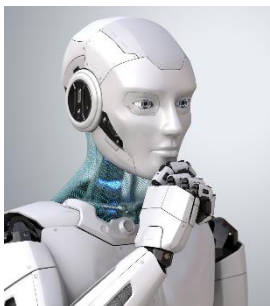
フィジカルAI向けに新型機を開発、新たな領域で拡大する精密・高剛性部品需要を取り込む

人型ロボット市場予測



(各種資料より当社作成)

フィジカルAI用部品に求められる特性

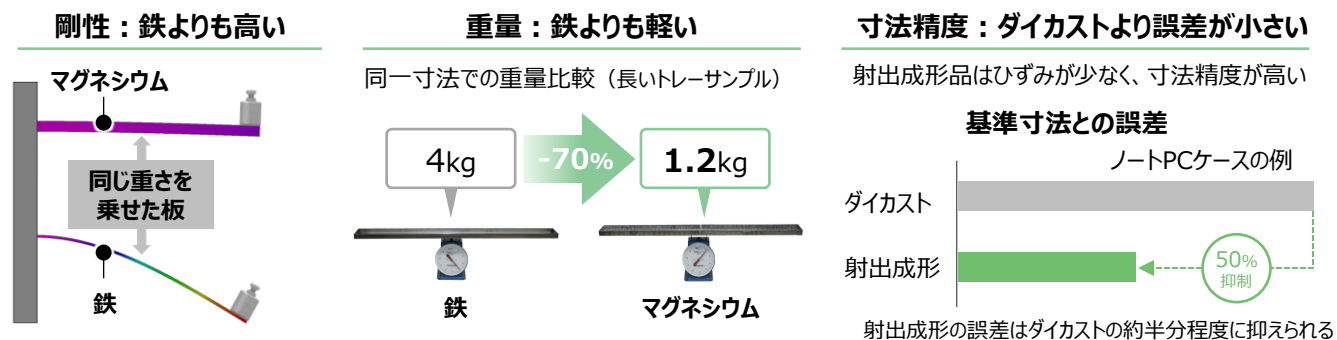


- **軽量・高剛性**
消費電力低減、俊敏性などが求められる。
- **精密成形性**
関節部等に使用のため、成形精度要求が非常に高い。

新型機を開発・投入、新たな需要に応える

- マグネシウム合金の射出成形は、ダイカスト法と比べ薄肉品の精密成形が可能、寸法精度にも優れる。
- 室蘭製作所の素材技術と広島製作所の金属加工技術により圧倒的に長寿命のシリンダ・スクリュを開発。蓄積した技術的知見と、グループ会社の有するマグネシウム成形のノウハウを活用、フィジカルAI向け小型・精密成形機を27.3期に上市予定。
- 採用が拡大する自動車向けに加え、フィジカルAI関連需要など用途拡大により事業伸長を目指す。

フィジカルAIに生きるマグネシウム射出成形品の特長



防衛関連機器

アップデート・サマリー

増加する需要に対応した生産体制を着実に整備し、国の安全保障戦略に貢献

当初計画の
戦略

国が定める防衛重点分野への取り組み

- 生産拠点の整備・拡充、適地生産・相互補完により供給能力を拡大
- 装輪装甲車の量産に向けた生産体制の構築

将来装備品の研究試作への取り組み

- レールガンの開発体制を強化、研究試作を遂行

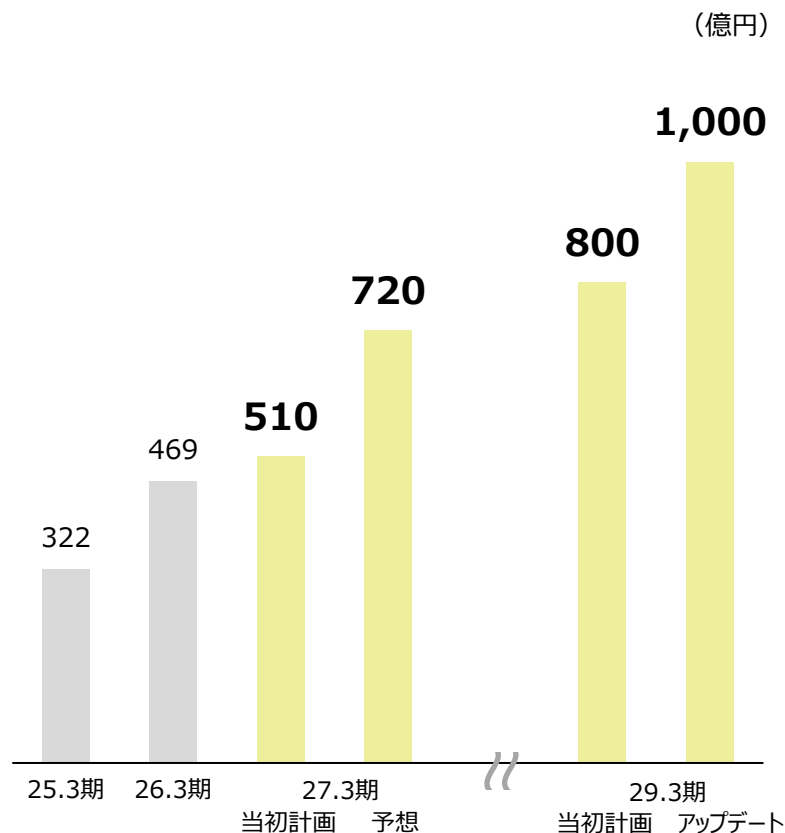
事業環境の
変化

- 地政学リスクの高まりを背景に、防衛装備品への重点配分がなされていることに加え、抑止力強化の側面から、新規装備品のニーズがより高まる
- 防衛省では『防衛力変革推進本部』を設置(2025年10月)、安全保障関連三文書の2026年内改定に向け政府での検討が進む

戦略の
アップデート

- 防衛関連製品の契約数量増への対応、並びに新製品の早期装備化に向けた取り組みを加速する。
- 適地生産・相互補完による生産体制の整備、サプライチェーンの強化により増加する需要に対応

売上推移



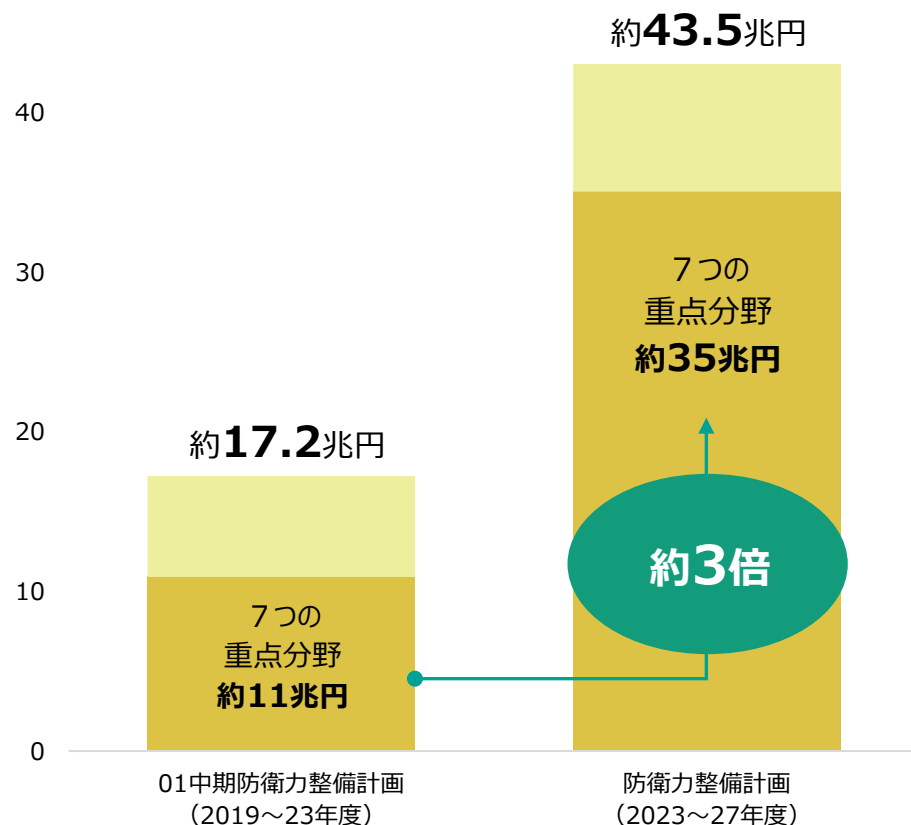
防衛関連機器

アップデート

契約数量増への対応と、次期・将来装備品の提案・開発を加速する

防衛力整備計画の拡大（物件費）・・・当初計画と変更なし

50（兆円）



契約数量増への対応

- 地政学リスクの高まりを背景に、重点分野の中でもスタンドオフ防衛能力の強化への予算配分が増加、ミサイル関連の需要が高まる。ミサイル発射筒の増産に向けて、省人化・自動化を進めた生産ラインを構築し、生産数量と短納期対応を実現。



各種ミサイル発射筒
(写真は12式地对艦誘導弾発射機)
(写真：陸上自衛隊HPより引用)

- 装輪装甲車（人員輸送型）
装輪装甲車を2025年9月に初号機を納入。その後、継続して製造中。
- 適地生産・相互補完
各所の生産体制整備し、サプライチェーン強化により需要対応。

装輪装甲車
(人員輸送型)



次期製品の早期装備化

- 装輪装甲車の派生型への展開を含め、次期製品の開発・提案を強化する。
- 将来装備品の開発を加速する。



試作レールガン
(写真：陸上装備研究所HPより引用)

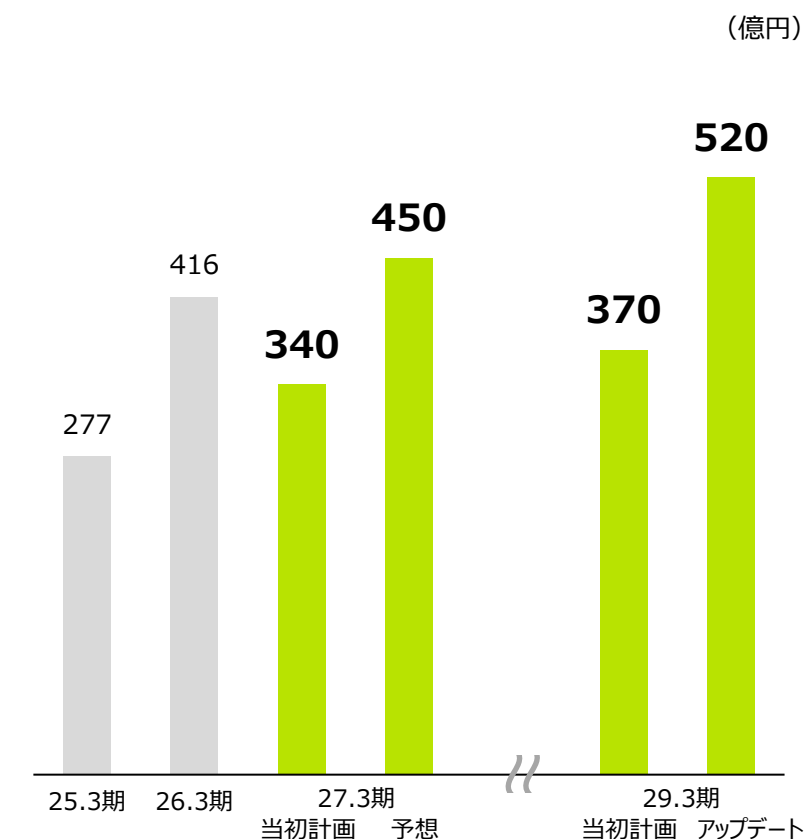
電子デバイス他

アップデート・サマリー

FPD向けの生産増強と、AIサーバー向けの成長により、事業規模の拡大と安定を図る

主要製品	ELA	プレス機	ラミネーター
当初計画の戦略	- 第8世代（G8）基板対応装置を投入、シェアを向上 - パワー半導体向けに装置を開発、市場参入を図る	プリント基板（PCB）需要の拡大が期待できる海外市場への展開を図る	半導体パッケージ基板需要の拡大するデータセンター市場に向け、新型機を投入
事業環境の変化	OLEDパネル需要が想定を上回って伸長、中期的に継続の見通し	PCBはデータセンター向けに大型化し需要拡大、中国に加えインドでも生産が広がる	当社新型テスト機による、次世代パッケージ基板の量産に向けた顧客評価・選定が進行中
戦略のアップデート	- 圧倒的に高い生産性を背景にF-ELA装置の受注を拡大、アフターサービスの伸長にもつなげる - 生産設備を拡張・増設、製品大型化と需要増に対応	高多層PCBの大型化に対応したプレス機を投入、リーディングカンパニーへの納入実績を活かし、新興国需要も取り込む	テスト機の高評価をもとに、次世代パッケージ基板リーディングサプライヤーからの受注に繋げる

売上推移



電子デバイス他

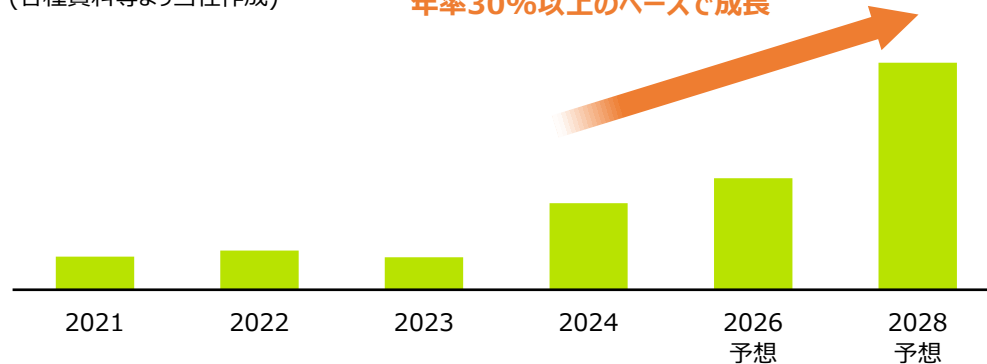
アップデート

F-ELAの生産体制を強化し本体受注を伸長、アフターサービス事業を拡大

タブレット・ノートブック向けOLEDパネル需要見通し（数量ベース）

（各種資料等より当社作成）

年率30%以上のペースで成長

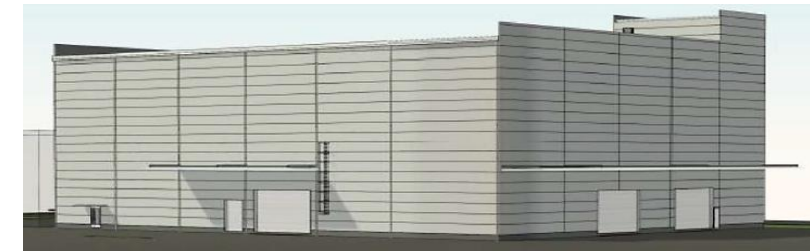
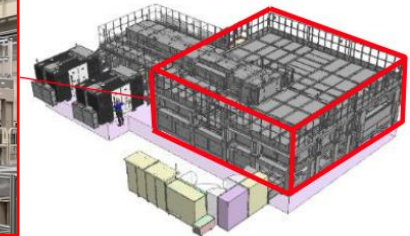


- タブレット・ノートPC等向けOLEDパネル需要は、LCDからの置換も含め増加基調を継続、年率30%以上の成長を見込む。中国を中心に、ディスプレイメーカーによるG8パネル他の増産投資が続く。
- フロート式搬送装置を適用したレーザアニール装置（F-ELA）は、圧倒的に高い生産性を背景に、24.3期に世界初のG8 OLEDパネル製造プロジェクト向けに複数台を受注。以降、複数の顧客より継続してF-ELAを受注、G8 OLEDパネル用ELA装置の事実上のスタンダードに。
- 業界最大手の各社での採用継続による納入台数増加により、アフターサービス事業も拡大の傾向。

クリーンルームを拡張・増設し供給体制を強化



G8 OLEDパネル向け F-ELA装置



新クリーンルーム棟（完成予想CG）

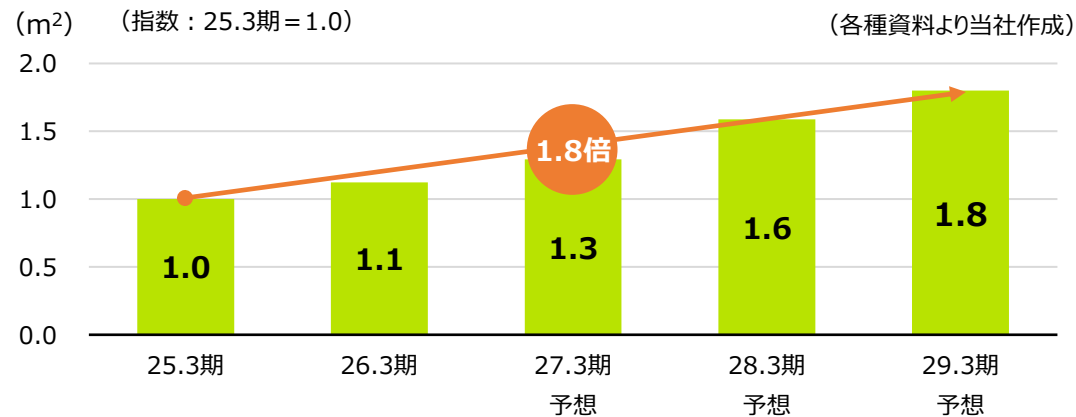
- 需要の増加とELA装置の大型化に対応し、既存のクリーンルームを拡張すると共に、新たな大型クリーンルームの設置を決定(28.3期稼働開始予定)、顧客の納期要求への柔軟な対応が可能な生産体制を整備する。

電子デバイス他

アップデート

市場要求に対応した装置の投入により受注を拡大

AIデータセンター向け高多層プリント基板市場予測



- データセンター向けに高多層プリント基板（PCB）の需要は増加を継続、29.3期には25.3期の1.8倍の規模へと成長の見通し。
- 当社は1943年に国産初のホットプレス機を、1980年にPCB用プレス機を開発、上市。2001年に銅張積層板（CCL）用プレス機を開発。
- データセンター向けにPCBの高多層化と大型化が進む。2005年より高多層PCBの大型化に対応。

大型化・高平坦度を実現するプレス機を投入

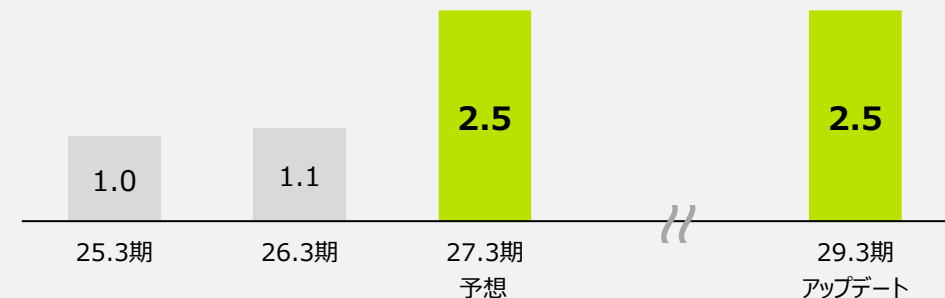


多層プリント基板用 真空ホットプレスシステム

- 高多層PCBの生産性向上に向け、大型基板に対応したホットプレス機の多段化を推進。
- 名機製作所での量産体制を強化、増加する需要に応える。

高多層基板向けプレス機売上高推移・予想

(指数：25.3期 = 1.0)



素形材

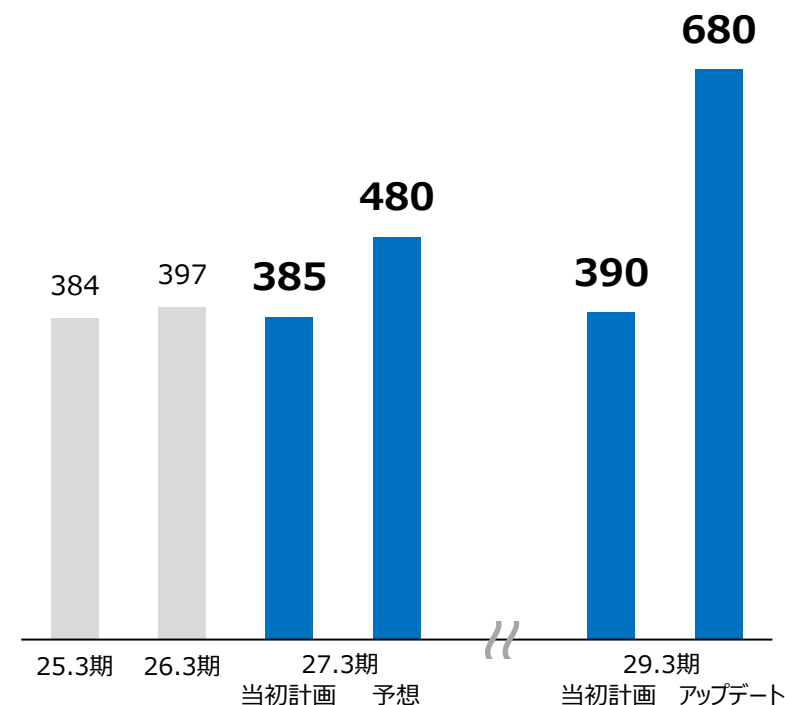
アップデート・サマリー

電力製品に加えて原子力製品の生産能力増強を決定、長期的な需要拡大に対応

主要製品	電力	原子力
当初計画の戦略	- 脱炭素とエネルギー安全保障の観点から、原子力発電と高効率火力発電向けに需要は長期的に継続 - 基幹生産設備へのリフレッシュ投資により生産能力の維持と生産効率の改善を実現、収益力を向上する	
事業環境の変化	- データセンター向け電力需要の拡大を背景にガスタービン・コンバインドサイクル（GTCC）向けを含む、高効率火力発電用ロータシャフトの需要が急増。中計想定を大幅に上回る需要が継続 - 原子力発電向けでも、新設・取替共に高水準の需要が継続	- 西欧を中心に大型炉建設計画が順調に進捗するなか、東欧に加え米国での計画が現実味を増し、市場拡大の流れ - 米国を中心にSMR建設計画が具体化、サプライチェーンの重要性が高まる
戦略のアップデート	旺盛な大型、耐熱ロータシャフトへの需要に対応、設備能力を1.5倍に増強	原子力製品の生産能力を29.3期にかけて倍増

売上推移

(億円)

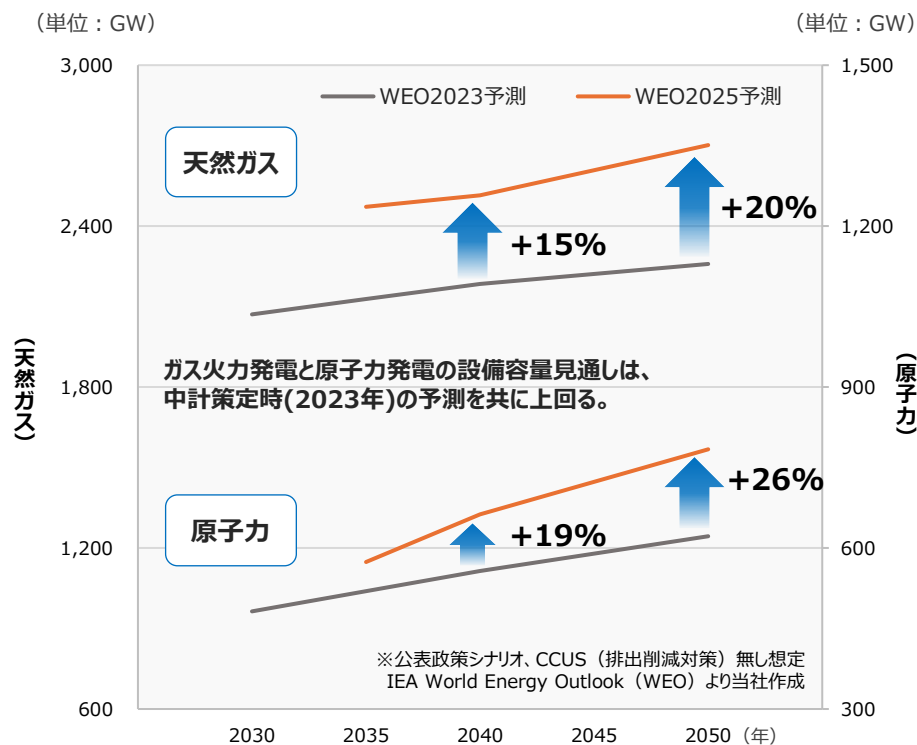


素形材：電力製品

アップデート

電力需要の増加に対応し、設備能力の50%増強を推進

世界の発電設備容量の見通し

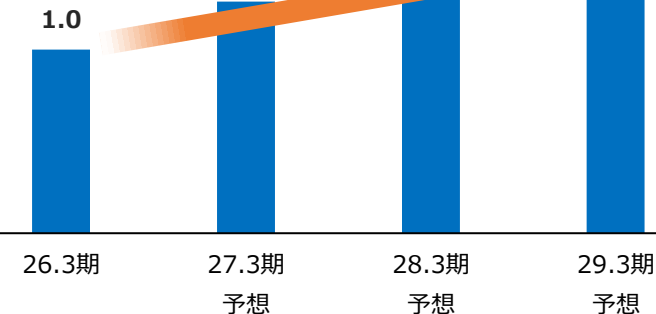


設備能力増強投資を着実に遂行

- ガスタービン・コンバインドサイクル（GTCC）向けを含む、高効率火力発電用ロータシャフトの需要が大幅に増加。原子力向けでも、新設・取替の高水準の需要が長期間継続見込み。
- 長期的に高まる需要に対応する設備投資は順調に進捗、29.3期に設備能力を26.3期対比1.5倍とするべく、着実に計画を進める。

ロータシャフトの需要見通し（出荷本数ベース）

(指数：26.3期=1.0)



2026年4月より稼働を開始したマニプレータ

素形材：原子力製品

アップデート

市場拡大と長期的な需要の伸長に対し、生産能力の倍増を決定

原子力製品の市場動向

- 英・仏の大型炉建設計画は順調に進捗。また、ポーランドやブルガリアなどの欧州諸国で、原子力計画も着実に進む。
- 米国では新規大型炉建設案件の具体化が進む。また、SMRの建設計画が具体化しており、サプライチェーンの重要性が高まっている。
- 国内では使用済燃料の輸送・保管用キャスク部材の需要が堅調。
- 中長期的な需要伸長への対応に向け、顧客との密接な情報交換を継続。



Framatome社 Fontana CEOのご来社
(2025年4月 室蘭製作所)

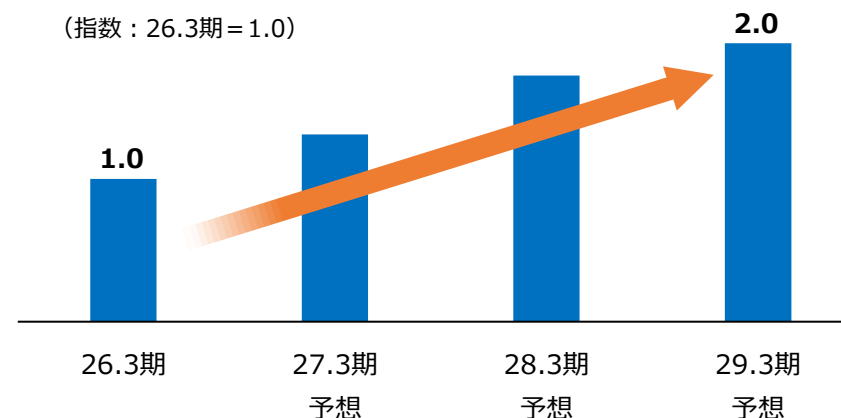


GE日立ニュークリアーエナジーと
BWRX-300に関し覚書(MOU)を締結 (2026年4月)

需要拡大を見据え生産体制強化

- 市場拡大と長期的な需要の伸長に対応し、既存設備・製造能力を最大限活用するための人員増強および生産性向上を推進。29.3期までに原子力製品の生産能力を従来比2倍に拡大。
- さらなる需要増加を見据え、5面加工機の導入など機械加工・検査工程を中心に省人化・自動化を推進。

原子力製品の生産能力の見通し (数量ベース)



エンジニアリング：銅合金

アップデート

高機能銅合金の需要拡大に応える供給体制の構築

室蘭銅合金(株)の設立

- 2019年にJX金属（株）との合併会社である室蘭銅合金（株）を室蘭製作所内に設立。
- 両社が培ってきた鋼材、銅合金の溶解・鋳造技術を結集し、チタン銅等の高品質な銅合金鋳塊の供給体制を確立。
- 素材技術を通じて、データセンターや次世代通信インフラを支え、高度情報化社会の発展に貢献。

名称	室蘭銅合金株式会社
所在地	日本製鋼所 室蘭製作所内
事業内容	銅合金の溶解及び鋳造
設立年月日	2019年8月1日
出資比率	(株) 日本製鋼所 51%, JX金属（株） 49%

最新鋭設備により、チタン銅の安定供給体制を確立

- データセンター向けサーバーの高性能化に伴う熱対策ニーズの高まりから、高温耐熱特性に優れたチタン銅の採用がサーバー向けコネクタ等で急拡大。
- 最先端技術を導入した新設備により、高品質な銅合金鋳塊の安定供給体制を確立。高水準の需要に対して最大限の生産を継続。



サーバー用基板のコネクタ等にチタン銅を使用

フォトニクス（GaN、LN、人工水晶）

アップデート・サマリー

新規事業として軌道に乗せ、将来のコア事業とする

当初計画の戦略

- 窒化ガリウム（GaN）は、レーザダイオード（LD）、高周波デバイスへの適用を想定し、当社固有技術であるオートクレーブを用いた、低圧酸性アモニウム法による大型結晶の量産技術を確立
- ニオブ酸リチウム（LN）は、光通信・光変調器用基板や各種接合基板向け素材として開発し、生産体制の構築と量産化を実現

事業環境の変化

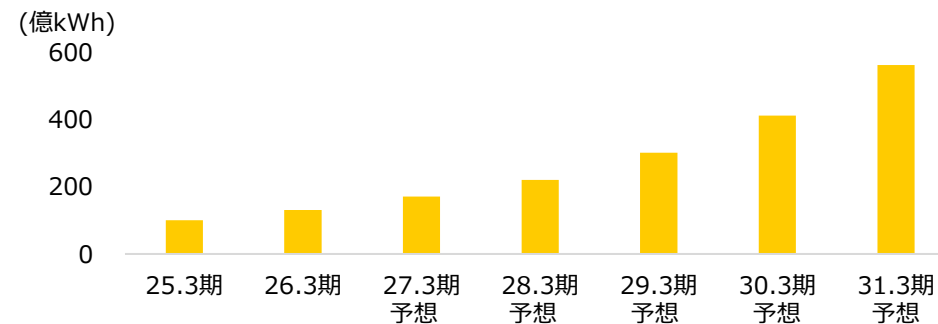
- GaNは、LD、高周波デバイス、パワーデバイス用途に、量産化の取り組みが進む。特に、データセンターでの電源小型・高効率化への期待が高まる
- LNは、データセンター向けに通信の大容量化・高速化・省電力化を目的とした光通信デバイスに適用するべく、当初想定よりは時間を要しつつも開発が進む。

戦略のアップデート

- フォトニクス事業室を新設し、事業化フェーズへ移行
- 低欠陥GaN結晶の量産化と顧客評価・事業化を加速、LNについても技術開発と顧客評価を進める
- GaN、LN、人工水晶を中心に、データセンターおよび次世代通信インフラを支えるフォトニクス事業の確立を目指す

データセンターの電力需要予測

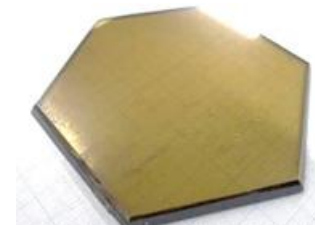
（各種資料より作成）



- AIの急速な普及に伴い、データセンターが増加し、電力需要の増加が見込まれている。

フォトニクス事業の確立に向けて

- 低圧酸性アモニウム法による、低欠陥GaN結晶の量産に向け、生産体制を整備中。
- データセンター向け光変調器需要の拡大に伴いLN結晶の需要が増加。LN結晶の生産能力を拡充。
- デバイスメーカーによるサンプル評価に向け、GaN・LNともにサンプル出荷が増加傾向を継続。

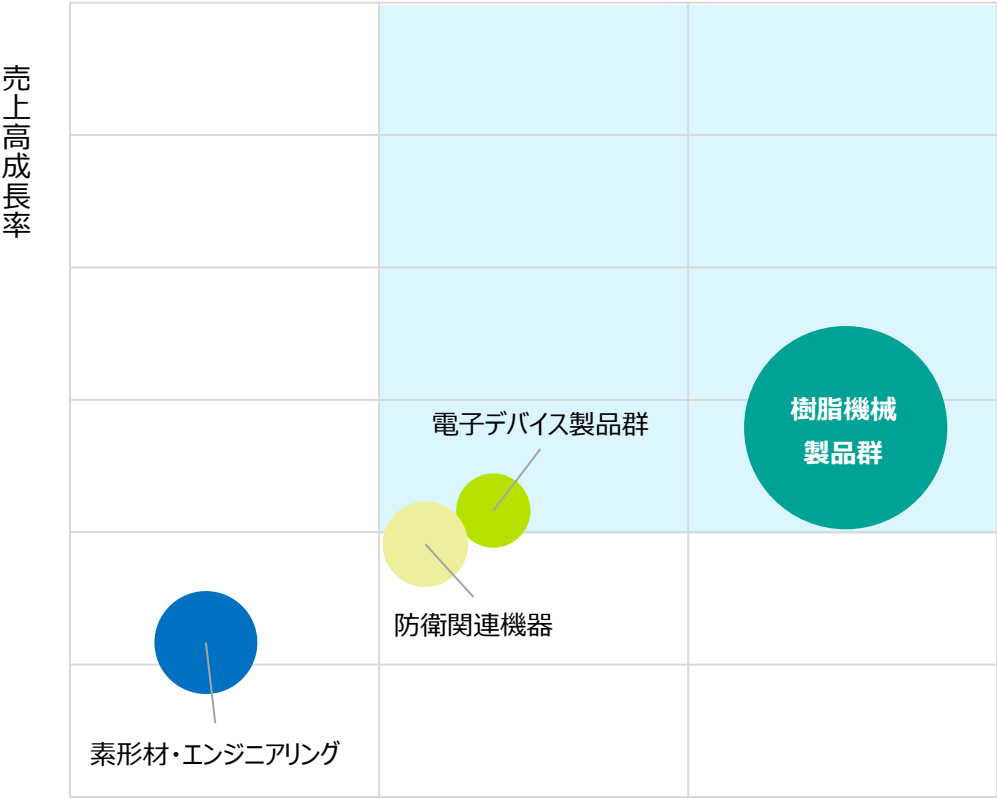


窒化ガリウム（GaN）結晶

防衛、素形材等の成長領域への重点投資とROEの向上を両立

22.3期 – 23.3期の平均値

※円の大きさは売上高



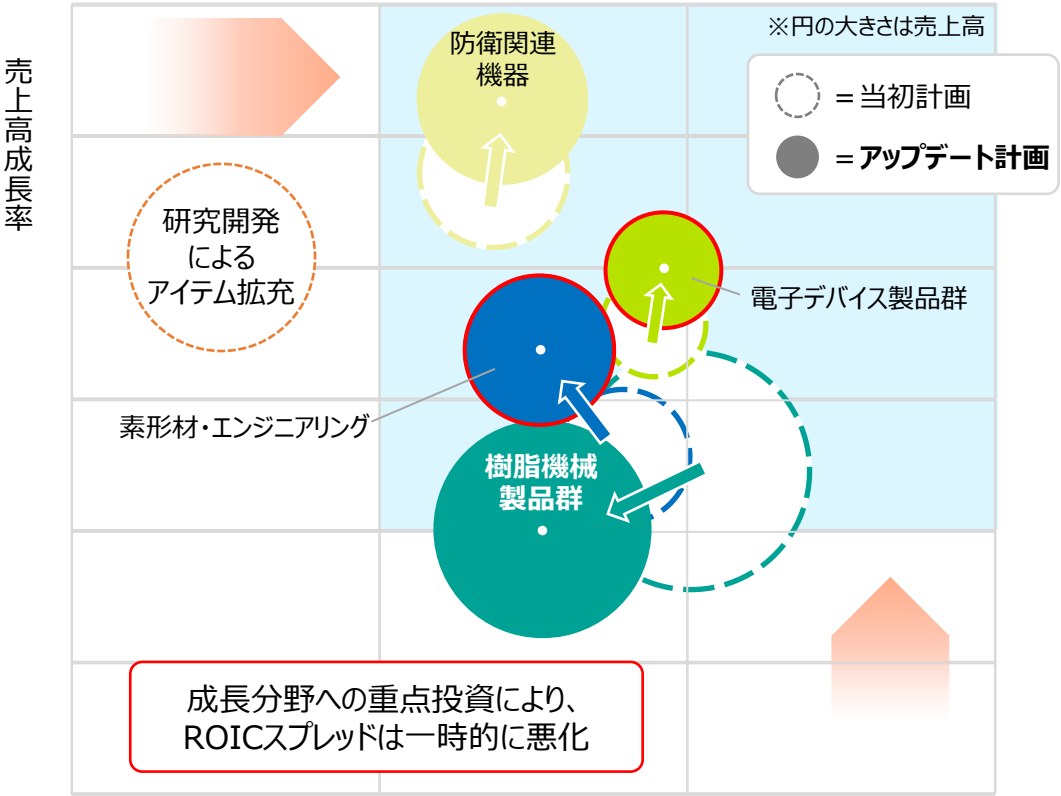
ROICスプレッド

29.3期 計画

アップデート

※円の大きさは売上高

○ = 当初計画
● = アップデート計画



ROICスプレッド

樹脂機械製品群

産業機械セグメント（樹脂製造・加工機械、成形機）

防衛関連機器

産業機械セグメント（防衛関連機器）

電子デバイス製品群

産業機械セグメント（電子デバイス他） + その他事業セグメント

素形材・エンジニアリング

素形材・エンジニアリングセグメント

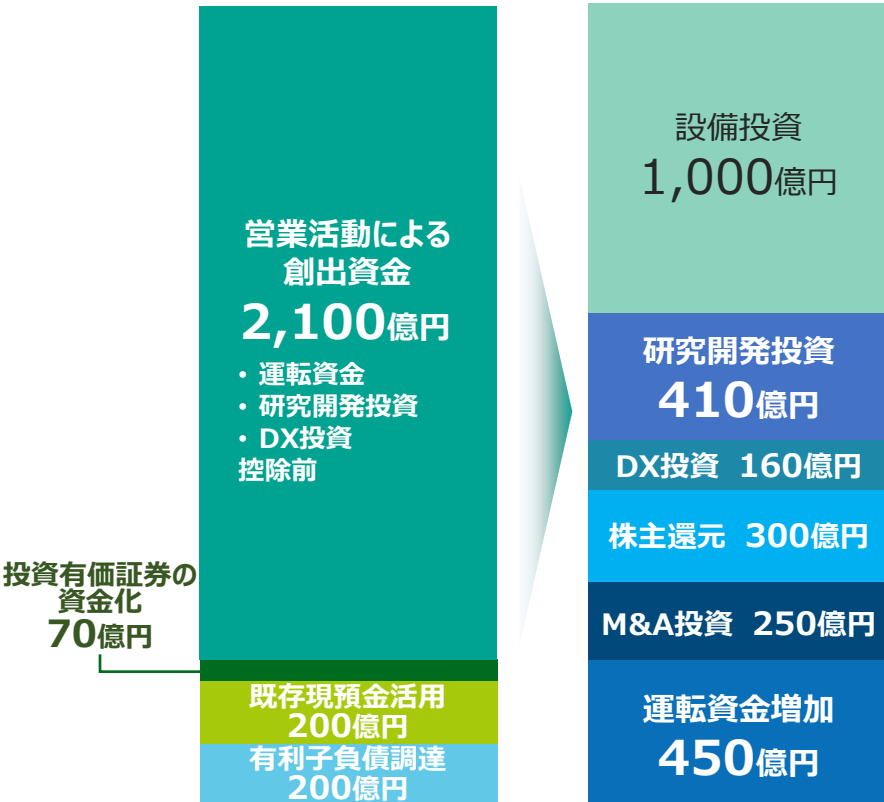
成長投資を充実させるとともに、事業成長に伴う運転資金を調達

当初計画 累計2,570億円

アップデート 累計3,230億円

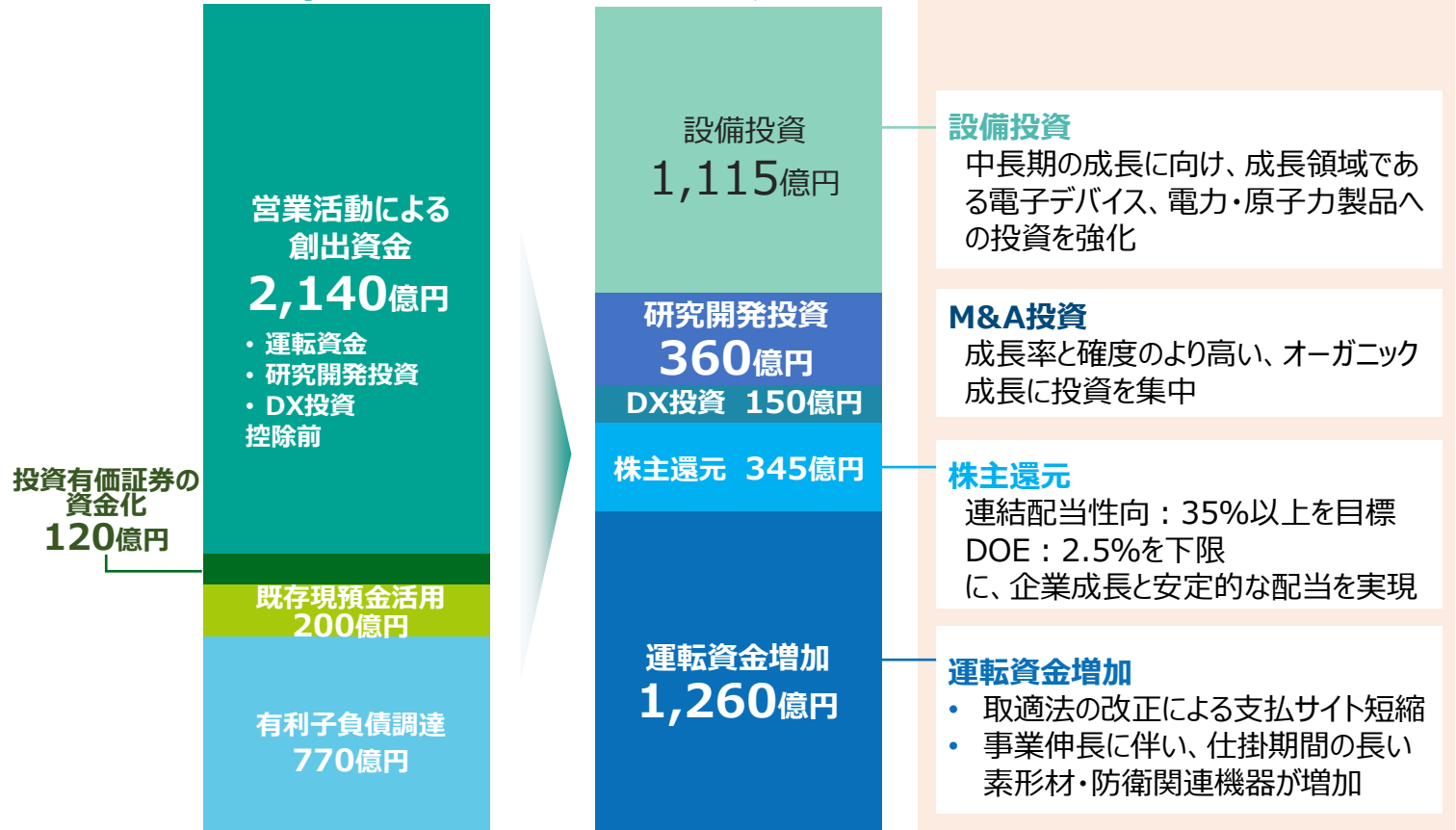
原 資

使 途



原 資

使 途



財務の健全性

有利子負債調達額は当初計画比増加するが、財務の健全性は確保

(億円)	2024年3月期末	2025年3月期末	2026年3月期末	2027年3月期末 予想	2028年3月期末 アップデート	2029年3月期末 アップデート
有利子負債	436	435	883	1,120	1,362	1,206
純有利子負債	▲539	▲323	105	502	688	431
ネットD/Eレシオ（倍）	▲0.30	▲0.17	0.05	0.22	0.29	0.17
自己資本	1,769	1,932	2,124	2,246	2,392	2,580
自己資本比率	48.3%	48.5%	49.4%	46.7%	45.8%	47.5%

成長局面に伴う一時的なレバレッジ上昇を経て、キャッシュ創出力の回復とともに、財務体質は改善フェーズへ移行

成長投資に伴う一時的な財務負担の増加

- 防衛関連機器の需要拡大を背景に、24.3期以降は運転資金および設備投資需要が増加し、最大1,362億円（28.3期）まで増加。ネットD/Eレシオも0.29まで上昇。

自己資本の着実な積み上げにより基盤は安定

- 自己資本は24.3期の1,769億円から29.3期には2,580億円へ拡大し、継続的に財務基盤を強化。自己資本比率も45%以上を維持し、健全性を確保。

29.3期に向けてレバレッジは改善局面へ

- 24.3期から28.3期までと比較し防衛関連機器の売上増加が緩やかになるとともに、前受金の積極的な獲得などにより、純有利子負債は688億円（28.3期）から431億円（29.3期）へ減少見込み。ネットD/Eレシオは0.17まで改善。

A conceptual image featuring a hand holding a glowing, semi-transparent digital globe. The globe is composed of a mesh of white lines and dots, representing a network or data structure. The globe is centered over the map of Japan. The background is a soft-focus blue sky with a body of water and distant greenery. The overall aesthetic is futuristic and technological.

JSW 日本製鋼所